

2 0 2 2 年 度

(令和4年度)

事業計画

学校法人 京都橘学園

2022 年度事業計画

京都橘学園は、長期ビジョン（2019～2026）および実行プラン（2019～2022）で構成する「第2次マスタープラン」の取り組みを進めます。

第2次マスタープランでは、第1次マスタープランからの課題を引継ぎつつ、本学園を取り巻く環境や現在の到達点と課題を踏まえ、プラン全体を再検討し、総合学園としての教育保育の充実や規模拡大、就職進学実績の向上、研究支援、地域連携・社会貢献などの方向性を策定しました。長期ビジョンの実現に向けて、2022年度までの目標数値を含めて定め、実行プランを具体化します。そして、年度ごとに計画と実施と振り返りを積み重ねながら目標を達成します。

2023年度以降に取り組みを予定している第3次マスタープランについては、社会環境の変化や他校との競合の状況などを分析し、今後、変化の激しい社会の中で学園がどのような方向で発展すべきかについて計画します。

京都橘大学においては、2021年4月に工学部、経済学部、経営学部を開設しました。2023年4月には「総合心理学部（仮称）」の開設を構想中です。9学部15学科からなる文理融合の総合大学としてさらなる発展をめざします。今後はさらに、Society5.0時代の教育改革や機関研究の推進など必要な改革を実践します。

京都橘中学校・高等学校においては、生徒数1,200人規模の学校を実現し、「自立」・「共生」の教学理念のもと、夢に向かってチャレンジする生徒を支える学校教育をめざします。

たちばな大路こども園においては、開園5年目を迎えます。さらに教育保育の質を高め、地域との取り組みも強化します。

1. 京都橘大学

(1) 教育活動の推進

- ・教育の質保証を推進するための施策として、新ポータルサイトシステムを活用した学生の自己省察を促す履修指導体制の構築と運用、長期休暇等を活用した体験型学修プログラムを核とするキャリア教育の構築と運用を全学的に計画するとともに、100分授業における教育方法の改善にむけた取り組みをすすめます。また、アカデミックリンクスのラーニングコモンズにおいて実施している学習支援を充実させます。
- ・文学部においては、2017年度から始動した文学部改革について、引き続き充実した体験型学習プログラムを計画し、キャリアに強い人材の育成をめざします。また、2017文学部改革の到達点と課題を精査し、今後の教育課程の充実策を検討します。
- ・国際英語学部においては、「グローバルビジネス」「グローバルツーリズム」「国際教養」の3つのコースに整理した新カリキュラム導入の2年度目を迎えます。コロナ禍における海外留学の安全管理確認を行い、2回生前期からSAP（Study Abroad Program）を実施し、帰国後の学びをさらに充実させます。
- ・発達教育学部においては、教職・保育職への就職目標として公立幼保教諭および公立小学校教諭の合格率70%をめざし、児童教育学科と教職保育職支援室との連携強化により全国トップレベルの質を持つ教職・保育職養成をめざします。
- ・経済学部、経営学部、工学部においては、開設2年目のカリキュラム策定を進めます。学部間の連携については、各学部学科の特長を活かした3学部合同のPBLの取組みを推進します。LAを効果的に活用し、上回生と下回生のつながりの創出、それによる各学部学科の中心となる学生集団の形成をめざします。さらに、公益財団法人経済同友会の実施するインターンシップへの参加を促進し、3年後の卒業時には、就職実績においても結果を残せる人材の育成をめざします。
- ・看護学部においては、2020年3月に京都橘大学シミュレーション・コモンズ(略称 Citrus SIMCO/シトラス・シムコ)を整備し、シミュレーション教育の本格導入を開始しました。2022年度は、DX教材の活用を積極的に

いながらコロナ禍における臨地における学修機会の減少に対応したシミュレーション教育の導入を行います。また、厚生労働省が進める地域包括ケアシステムの整備にも対応し、2019年度から施行されている新カリキュラムにより、地域連携の強化に向けた教育プログラムを進めます。

- ・健康科学部においては、心理学科と他の4学科の教育連携を進めることにより、人々の心身の健康課題に向きあえる引き続き医療職養成をめざしています。また、客観的臨床能力試験（OSCE:Objective Structured Clinical Examination）を積極的に活用しながら、臨床現場でより力を発揮できる教育課程を展開します。
- ・心理学科通信教育課程においては、国家資格である公認心理師の取得をめざす学生を支援しつつ、社会人が仕事や家庭、地域活動などの場面で広く活用できる心理学の知識とスキルが身につく教育課程を展開します。
- ・2023年4月、健康科学部心理学科を改組し、「総合心理学部総合心理学科（仮称）」を開設する準備を行います。2022年4月に学部設置の届出を行い、通学制・通信制ともに新たなカリキュラムの開講準備を行います。
- ・大学院においては、看護学研究科のCNS課程（老年）の再申請を行います。また、2021年度に改組を行った健康科学研究科博士課程（博士前期課程・博士後期課程）における教育研究活動を行うとともに、2023年度以降のコース追加についても準備を進めます。

（2）研究活動の推進

- ・研究推進・研究支援政策の見直しを行い、新たな分野や学際的な機関研究を推進します。
- ・科学研究費等の外部資金の獲得に積極的に取り組むと共に、研究倫理教育および研究不正防止教育にも積極的に取り組みます。
- ・京都市および滋賀県などの自治体や企業、他研究機関との連携による学部学科の特色を生かした研究活動を推進し、研究成果を地域に還元します。

（3）学生支援活動の推進

- ・強化クラブの活動においては、各クラブの目標（サッカー部は1部リーグ昇格、女子バレーボール部はリーグ戦優勝および全日本インカレベスト4、弓道部はリーグ戦優勝および全国大会出場、吹奏楽部は関西吹奏楽コンクール金賞および代表）を達成できるよう重点的に支援します。
- ・一般のクラブ・サークル活動においても、集団で活動する経験により、社会生活に必要な力を獲得できるよう活動支援を充実します。
- ・学生への経済支援においては、高等教育の修学支援新制度を適切に運用し、支援の強化に努めます。また、高等教育の修学支援新制度と連動した本学独自の奨学金制度、経済援助給付奨学金等制度を適切に運用します。
- ・障がい学生支援のための「サポートリンクス」を開設し、障がい学生に対する支援の充実を図ります。また、学生相談室と連携しながらアドバイザー、教学事務部および学生事務部間の連携を強化します。
- ・正課内外における学生のボランティア活動を支援し、学生の主体性を育てます。

（4）就職支援活動の推進

- ・キャリアガイダンス、各種講座やセミナー、個人面談を通して、学生一人ひとりに就活実践力がつくよう支援します。
- ・低回生からの就業意識醸成と社会人基礎力の育成をめざし、社会との関わりの中で学生の意欲や主体性がより発揮されるインターンシップ・プログラムを計画推進します。
- ・U・Iターン就職協定を締結する府縣市との関係強化を一層進め、地方企業に対し本学の存在を周知する取組をさらに進めるとともに、東京での企業開拓、就職支援を推進します。
- ・チャレンジ意欲の高い学生の就活支援を充実させるため、公益財団法人経済同友会と事業連携を行い、経済同友会が実施するインターンシップへの参加を促進します。
- ・医療系学科と事務局が連携し、国家試験合格率100%に向けた国家試験対策を行います。

- ・行政職・公安職への就職支援を強化すると共に、人文・社会科学系学科の公務員試験支援対策を強化します。

(5) 地域連携の推進

- ・地域の金融機関等と協力したサテライトキャンパスの試みやたちばなサイエンスデーなど地域のニーズに応える取り組みを行います。
- ・近隣自治体や地元の商業施設との連携による教育研究を展開します。

(6) 学生募集および広報活動の推進

- ・京都の私立総合大学としてのブランドイメージを確立するとともに、本学らしさを強調した広報を展開します。また大学の動きをニュースとして積極的に配信するとともに、ステークホルダーの興味や関心、共感を引き出す広報を目指します。
- ・学生募集活動においては、国際から人文、教育、社会、医療系まで幅広い分野にわたる京都橘大学の教育研究実績を丁寧に伝えつつ、他大学には無い特長を前面に出した広報を展開し、大学全体のブランド力向上を図ります。
- ・2021年4月開設・定員増の学部学科および、2023年4月開設の「総合心理学部総合心理学科（仮称）」についての募集広報を重点課題とし、志願者増加を目指します。
- ・2022年度入試の状況を分析し、実志願者増とのべ志願者増のための入試制度改革設計を検討します。

(7) キャンパス整備の推進

- ・文理に渡る多彩な学びを実践し、地域の安全安心に貢献する開かれた次期キャンパス施設設備の整備を計画します。
- ・学園最大規模のスポーツ施設「KYOTO TACHIBANA スタジアム」の開設をふまえ、学園のスポーツ振興を促進するとともに、教育・研究・地域交流活動の創造拠点として活用します。
- ・学生数増加に対応した交通アクセスの整備工事を実施します。また、交通アクセスの整備工事に伴い、正門移設工事を計画します。

2. 京都橘中学校・高等学校

(1) 文武不岐の学校づくりと社会に貢献する人材の育成

- ・生徒たちが学業およびクラブ活動に励み、それらを計画的に進められるよう学習指導・進路指導を行い、夢に向かってチャレンジする生徒を支え、進学実績の向上とクラブ活動の活性化を図ります。
- ・社会に貢献する人材育成に向けて、新学習指導要領に基づき、新しいカリキュラムに基づいた教育実践を行い、探究学習を中心に自ら調べ自ら考える力を養成します。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を行い、これまでも行ってきた学校カウンセラーの配置、学校医等による定期検診、インフルエンザ予防ワクチン接種の校内実施などにより、生徒の心身両面での安心安全を図り、満足度の高い学校生活を実現します。
- ・生徒指導部を中心に生徒の規範意識を向上させる指導をし、落ち着いた校風を安定して発展させます。また、地域からの生徒指導要望への的確な対応、生徒憲章の浸透、安心安全な学校づくりなどを進めます。
- ・授業アンケートの実施と分析、校長による授業見学、外部教育機関実施（オンライン含む）の各種教育研究セミナー・進路指導セミナーへの参加、学校主催の教育研究集会の開催、本校が契約するオンライン研修ツールの活用など、教員の教育力・進路指導力とチーム力の向上を図ります。

(2) 進学実績で生徒募集域でのトップ50に入る高校の実現

- ・通常授業の充実を図るとともに、ASTM(After School Tachibana Method)の取り組みをさらに発展させ、進学実績目標を達成します。
- ・思考力・判断力・表現力を一層重視する「大学入学共通テスト」が開始され、推薦入試では、小論文、プレゼンテーション、主体性等を評価するための面接を導入されるなど、より多面的な方法による選抜が増加しています。それらの入試に対応するための対策講座の実施や最新の情報を提供するための様々なガイダンスを引き続き実施します。
- ・模試分析会を実施し、最新の模試データを活用した進路指導や分析結果に基づいたタイムリーな学力向上施策を実施します。
- ・タブレット端末を導入し、授業や放課後・家庭学習および日々の学びや活動の記録等にICTを活用した新しい教育の形を構築していきます。
- ・自習環境の整備を進め、自学自習力のさらなる向上を目指します。
- ・特進系コースの学力向上だけでなく、すべてのコースの生徒の学力を向上させ、公募推薦・一般入試における合格者数増を目指すことで、進学実績の向上を図ります。
- ・特別進学(E)コース、総合進学(A)、中高一貫(V1)コースにおいて、京都橘大学への内部推薦および指定校推薦の積極的な活用により、進学実績の向上を図ります。
- ・京都橘大学への内部進学者数を安定して増やす取り組みを進めます。

(3) 日本一を目指すクラブの育成等

- ・全国大会に出場する機会の多い高等学校の女子バレーボール部、男子サッカー部、陸上競技部、吹奏楽部、太鼓部の5つのクラブについて、日本一になるための支援を引き続き行います。併せて、既存クラブのさらなる活性化を進めます。

(4) 募集力の強化と安定的な経営基盤の構築

- ・コロナ禍にあっても来校者が安心して参加できるオープンキャンパス、学校説明会や「ドリーム☆スクール」などを企画し、志望者が本校に来校していただくことで、本校の魅力を感じてもらい、志望者増を図ります。
- ・塾訪問活動の強化、全教員による中学校訪問の継続、外部での本校主催学校説明会の開催、学校案内、SNS、ホームページ、新聞広告などの有効活用を図り、本校の認知度向上、志望者増を図ります。
- ・学力の高い志願者獲得のための中高の特別奨学生制度を継続するとともに、中学校の自己推薦型のプレミアム入試・適性検査型入試、高等学校の後期入試などの継続もしくは新たな入試制度の検討を行います。
- ・進学実績を高めるとともに、特別奨学金を適切に運用し、選抜類型への志願者を増加させます。
- ・生徒募集情勢の分析とその対応をすばやく行うため、塾や関連機関からの情報を的確に分析し、検討します。
- ・上記の取組みにより、中高の生徒数1200人の定員確保を行います。

(5) 伏見桃山の地で安定した学校づくり

- ・現キャンパスの長寿命化および魅力化計画を策定し、実行します。
- ・1200人規模の学校を安定的に維持するために既存建物改修による普通教室増および新規建物の建設を行います。

3. たちばな大路こども園

(1) 安定した教育保育の提供

- ・「自立・共生」の教育保育理念のもとに、質の高い教育保育の提供をめざします。
- ・園庭の天然芝、緑あふれる丘の園舎で、園児が自然に触れ、生き生きと過ごせる教育保育環境を整えます。
- ・日々のコミュニケーションを通じて保護者と連携し、家庭と園が一体となって子どもたちの発達を保障すること

も園をめざします。

(2) こども園職員の資質能力の向上

- ・京都橘大学教員を講師に招き、特色ある質の高い職員研修を実施し、職員の資質能力の向上をめざします。
- ・こども園職員を外部研修に参加させ、さらなる資質能力の向上をめざします。

(3) 子育て支援事業の実施

- ・地域に根ざしたこども園をめざします。子育て支援事業として、未就園児を対象に園庭開放や親子体験教室、一時預かり保育事業を実施します。

4. 京都橘学園

(1) 学園のブランド力の強化

- ・第2次マスタープラン（2019-2026）」を実行し、総合学園としての教育保育の充実や規模拡大、就職進学実績の向上、研究支援、地域連携貢献などを推進します。また、第3次マスタープランの準備を始めます。
- ・学園創立120周年事業において、新タグラインで確立したブランド価値を伝える事業を展開します。学園の今と教育モデルを積極的に伝える広報や、学生応援企画、キャンパスの魅力向上、社会連携を重視した寄附事業などを実施します。
- ・学園スポーツ振興の将来構想をまとめ、スポーツ系クラブの強化や、中高大および地域との連携などを計画化し、実行に移します。

(2) 事務局整備、職員育成の推進

- ・8学部15学科となった大学教学組織の規模拡大に伴い、継続して必要な大学事務組織を再編します。また、事務局体制強化のため、職員採用の強化および次世代の職員の育成を推進するための研修を実施します。

(4) 京都橘高等学校と京都橘大学との連携強化

- ・学園の総合的な発展のために、中学、高等学校、大学間の教学連携を強化し、高校から大学への内部進学を質量共に充実させます。

(5) たちばな大路こども園と京都橘大学との連携強化

- ・たちばな大路こども園に学園職員としてこども園事務室長を配置します。また、学園の強みを活かし、大学との連携を組み込んだ保育幼児教育事業をこども園で展開します。

以上